

富士山静岡空港の収支の概要

(交通基盤部空港局)

1 要 旨

富士山静岡空港は、道路や港湾と同様、県勢発展に不可欠な社会資本として整備したものであり、空港の利用が県民の利便性向上や経済活動に寄与できるよう利活用促進に努めている。

一方、一昨年度から、空港収支に係る情報の透明性を確保する観点で、国に準じて公表している空港管理運営の収支について、今年度も平成23年度の収支状況を取りまとめたので報告する。

2 概 要

(1) 空港管理運営に係るキャッシュフローベースの収支

- ・着陸料等収入額は153百万円となったのに対して、空港の管理運営（人件費を含む）に係る支出額は684百万円となり、収支差額531百万円は一般財源を投入している。
- ・一般財源投入額は、平成22年度決算に比べて、1億1千8百万円増加したが、この主な要因は、平成23年4月から国内線の着陸料の軽減措置を行ったことや小松便及び熊本便の運休、東日本大震災の影響による国際線の運休等による着陸料の減収及び3年ごとの定期検査実施等に伴う管理費用の増加である。

(単位：百万円)

区 分	23年度 a	22年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	153	259	△106	△41%
支 出	684	672	12	2%
収 支	△531	△413	△118	△29%

(2) その他の収支の試算

空港管理運営にかかる企業会計の考え方を取り入れた収支、また、空港管理運営及び空港整備にかかる収支の試算結果は別紙のとおり。

(3) 今後の取組

東日本大震災の影響や尖閣諸島・竹島問題など、航空利用を取り巻く状況は厳しいものがあるが、引き続き、着陸回数の増加、就航機材の大型化など利用拡大による収入確保を図るとともに空港管理経費の縮減に努めていく。